



特集

# 家でも学校でもない もうひとつの居場所

子どもたちが安心して過ごし、自分らしくいられる場所は、家庭や学校だけではありません。地域の中に、気軽に立ち寄り、話を聞いてくれる大人や友達と出会う「もうひとつの居場所」があります。家庭や学校でうまくいかないことがある子ども、誰かに話を聞いてほしい子ども——。そんな子どもたちの孤立を防ぎ、心の安定や成長を支える力が地域の居場所にはあります。

市では、子どもたちを地域全体で見守り支えるため、グリーンコープと連携し、各校区で居場所づくりを始めています。

**問合せ** 市子ども未来課子育て応援係  
(☎22-2111 内線1221)

## 地域の中に「子どもの居場所」を

子どもたちが健やかに育つためには、家庭や学校だけでなく、地域の中に安心して過ごせる「もうひとつの居場所」があることが大切です。

国の調査研究では、家庭や学校以外に「自分の居場所がない」と感じている子ども・若者が一定数いることが示されています。子どもにとっての居場所は、単に建物や部屋があることではなく、「ここにいていい」「安心できる」と感じられる場所のことです。行きたいときに行けること、遊ぶ、話す、勉強する、何もしないでゆっくり過ごすなど、自分の気持ちに合わせて過ごし方を選べるのが大切です。

子ども家庭庁では、全ての子どもや若者が安全で安心して過ごせる場所を持つよう、「子どもの居場所づくり」を進めています。令和5年12月には「子どもの居場所づくりに関する指針」が閣議決定され、地域の中に多様な居場所を「ふやす」、必要な子どもを居場所に「つなぐ」、よりよい居場所に「みがく」、取り組みを「ふりかえる」という視点が示されました。これを受け、全国各地で地域の実情に応じた居場所づくりが広がっています。



▲子ども家庭庁  
ホームページ

## 豪雨災害から学んだ支え合いの大切さ

市では、令和2年7月豪雨からの復旧・復興を進める中で、地域の支え合いや見守りの大切さを改めて実感してきました。一方で、校区によっては子どもが集える場所や支援につながる機会に差があり、身近な地域で継続的に子どもを見守る仕組みづくりが求められています。

## 各校区で始まる「出張ひだまり」

市では、子どもたちを地域全体で見守り支えるため、グリーンコープが運営する「子どもの居場所ひだまり（上新町）」と連携し、各校区で「出張ひだまり」を始めました。食事や遊び、学習、交流を通して、子どもたちが安心して過ごせる居場所を提供するとともに、必要な支援につながるきっかけづくりを進めていきます。



子どもの居場所 ひだまり



▲ひだまり  
ホームページ